





アルインコ株式会社  
2022年3月期決算補足説明資料

2022年5月

ALINCO Now

証券コード: 5933 東証プライム  
<https://www.alinco.co.jp/>

	<b>2022年3月期業績について</b> .....	<b>2</b>
	<b>2023年3月期業績予想について</b> .....	<b>13</b>

# 2022年3月期業績について

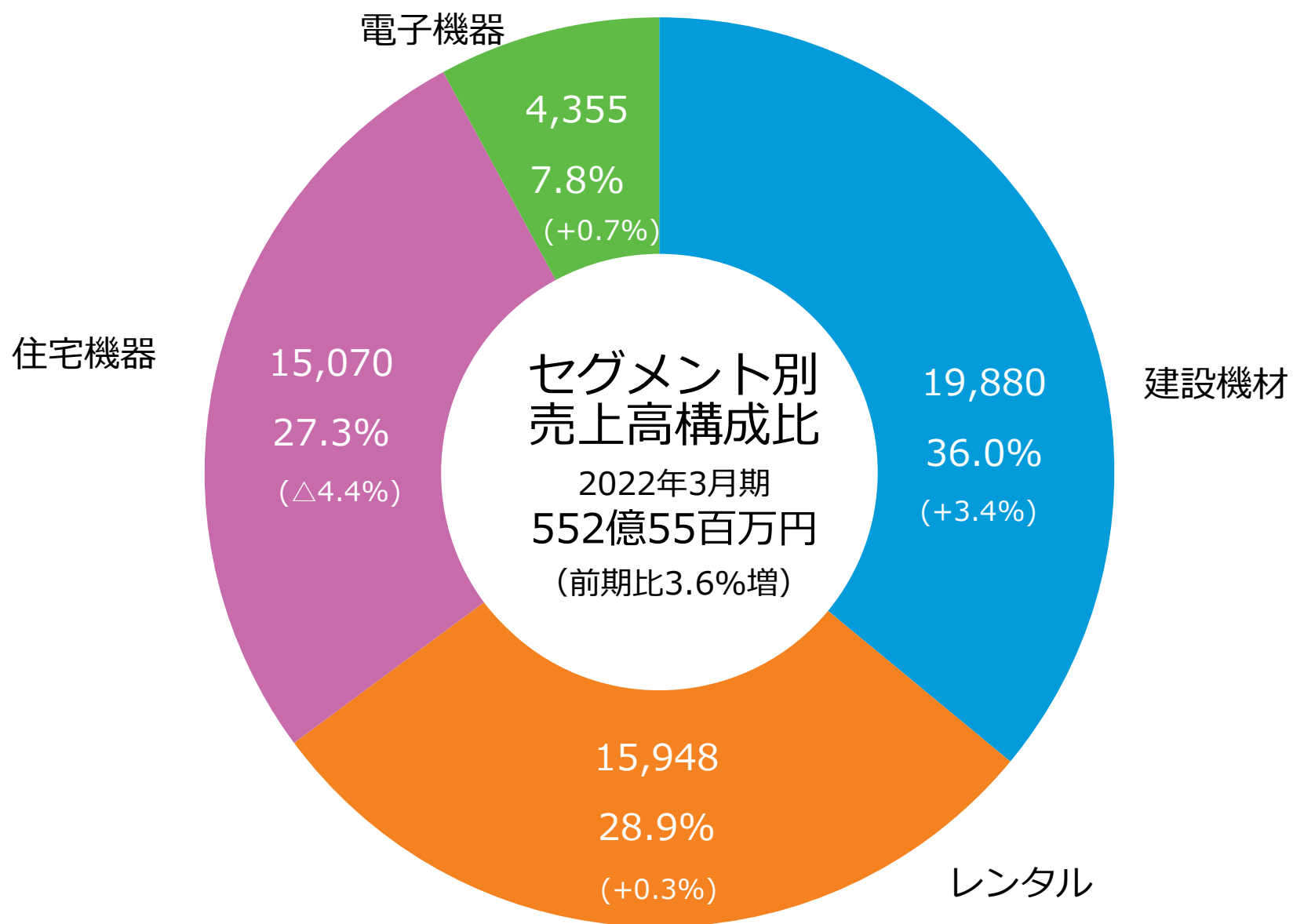
# 2022年3月期 連結業績

- ✓ コア事業において新型足場「アルバトロス」が大手建設会社で採用され出荷が始まるなど着実にシェアを拡大、レンタルでの稼働率もコロナ禍前まで回復、フィットネス事業における「巣ごもり需要」の反動減を吸収し、売上面では前期比増となった
- ✓ 利益面では、想定を上回る複合的なコスト上昇要因によって売上総利益率が低下した
- ✓ また、持分法による投資損失を営業外費用に計上したことによって経常利益も減少した

(単位：百万円)

	2020.3月期		2021.3月期		2022.3月期	
	実績 (売上比)	実績 (売上比)	実績 (売上比)	実績 (売上比)	前期比 増減額 (増減率)	
売上高	55,613 (100.0%)	53,341 (100.0%)	<b>55,255</b> <b>(100.0%)</b>	+1,914 (+3.6%)		
売上総利益	15,384 (27.7%)	15,029 (28.2%)	<b>13,402</b> <b>(24.3%)</b>	△1,627 (△10.8%)		
販管費	12,045 (21.7%)	12,475 (23.4%)	<b>12,283</b> <b>(22.2%)</b>	△191 (△1.5%)		
営業利益	3,338 (6.0%)	2,554 (4.8%)	<b>1,119</b> <b>(2.0%)</b>	△1,435 (△56.2%)		
経常利益	3,461 (6.2%)	2,874 (5.4%)	<b>1,126</b> <b>(2.0%)</b>	△1,748 (△60.8%)		
親会社に帰属する当期純利益	2,155 (3.9%)	1,664 (3.1%)	<b>451</b> <b>(0.8%)</b>	△1,213 (△72.9%)		
レンタル資産投資額	2,396	1,785	<b>2,048</b>	+263		
一般設備投資額	733	1,514	<b>1,246</b>	△267		
レンタル資産償却額	2,396	2,036	<b>2,006</b>	△29		
その他減価償却額	1,016	979	<b>1,000</b>	+21		

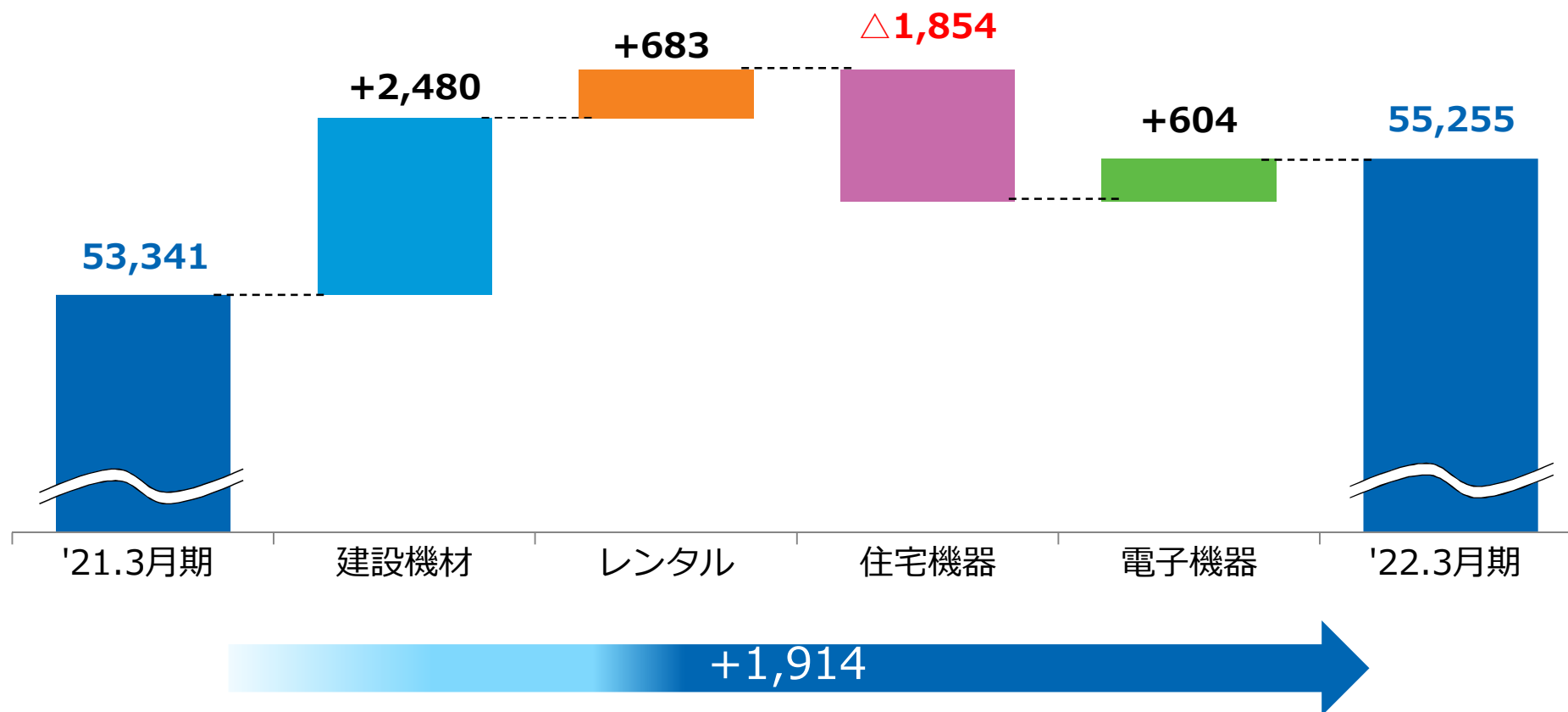
(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。



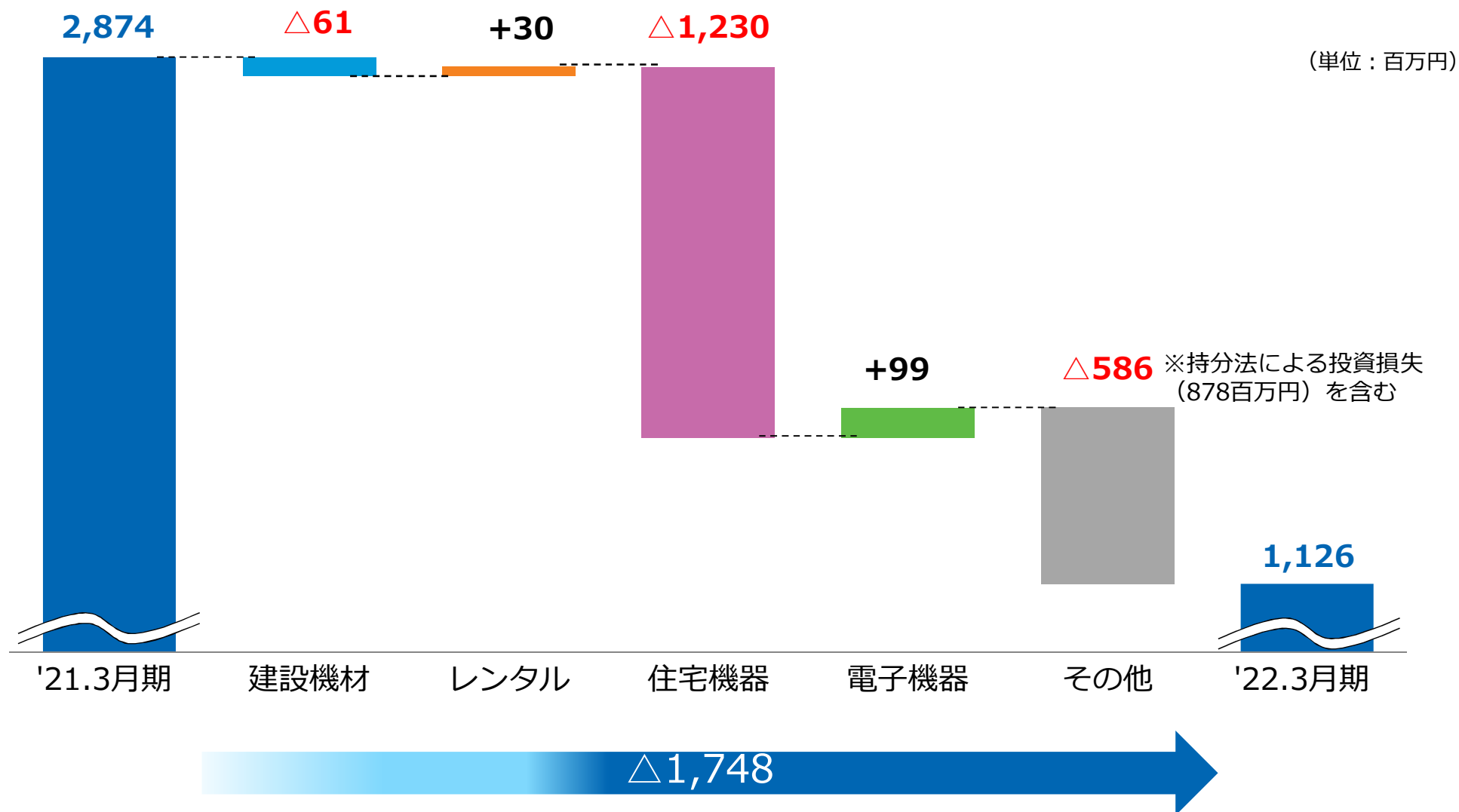
# 2022年3月期 売上高セグメント別増減要因

- ✓ 新型足場「アルバトロス」の販売は前期比58%増となり、コア事業の売上高増加を牽引
- ✓ 一方、フィットネス機器の販売は前期比29%減となり、住宅機器セグメントの売上高減少の主な要因となった

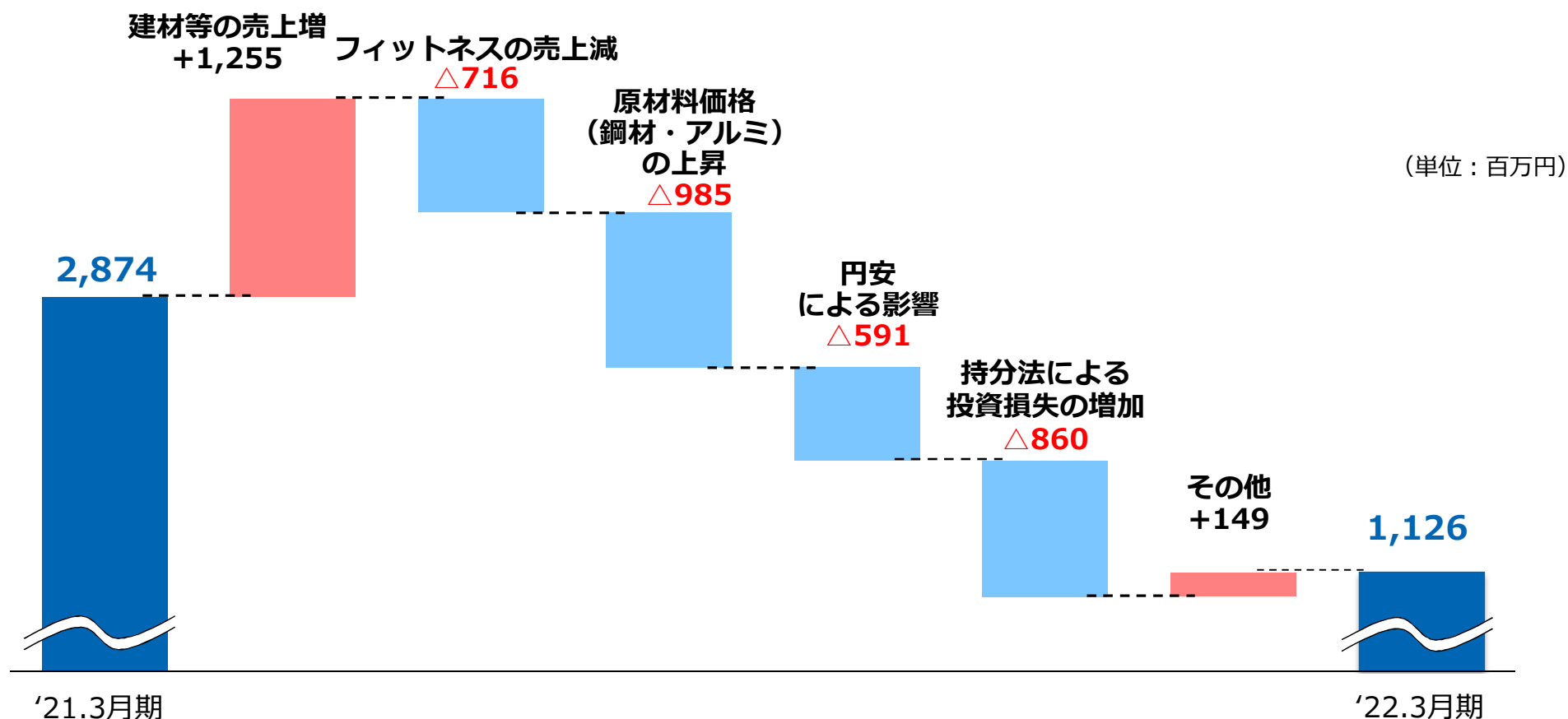
(単位：百万円)



# 2022年3月期 セグメント別経常利益増減要因



# 2022年3月期 要因別経常利益増減



- ✓ 建設機材を中心とした売上高の増加による増益効果は、フィットネスの売上減によって一部が相殺
- ✓ 想定を超えた複数のコスト上昇要因が発生（詳細については、次ページを参照）
- ✓ 在インドネシアの持分法適用関連会社について、コロナ禍による債権回収懸念の高まりに対応して持分法による投資損失を計上



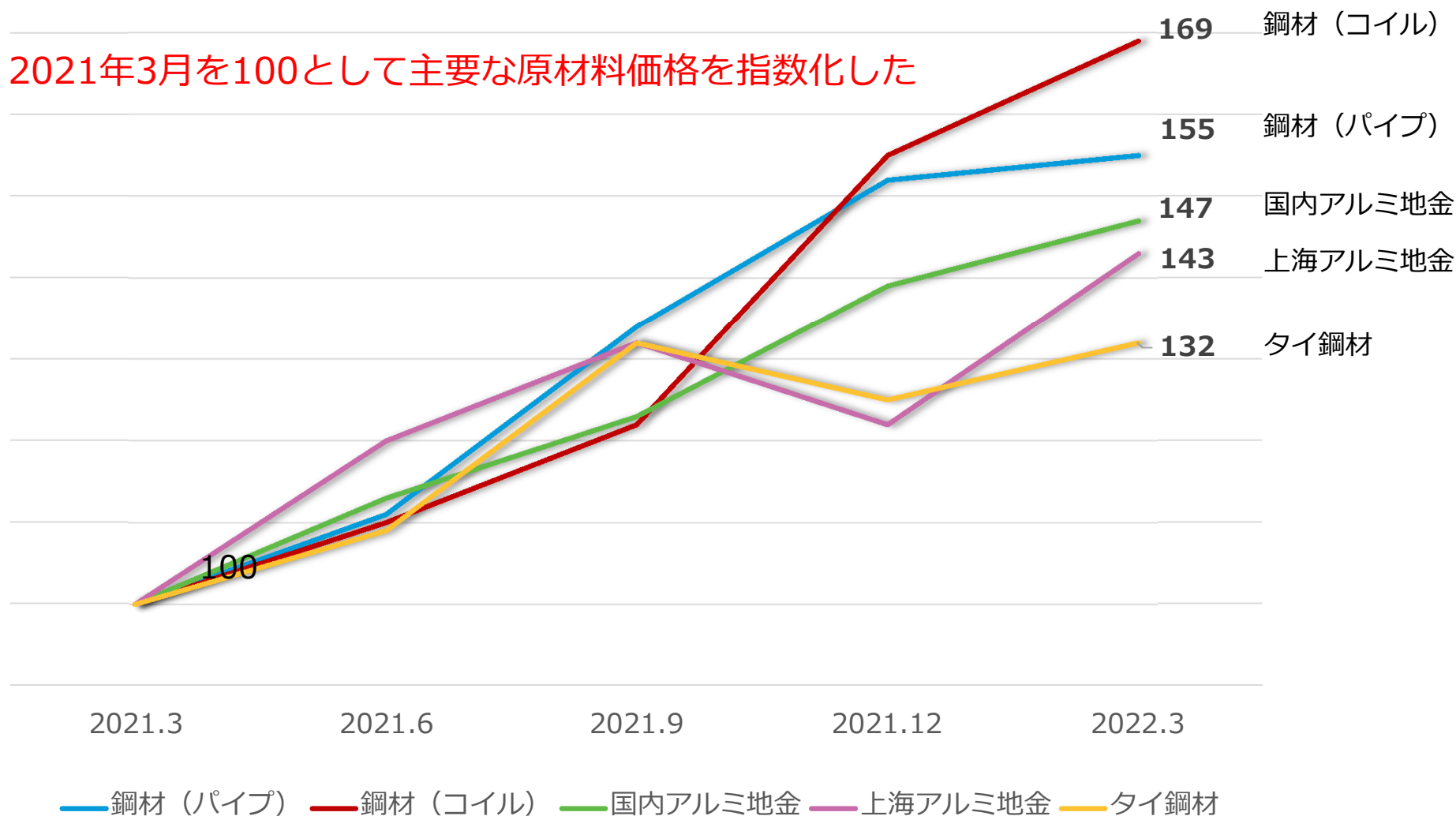
# 複合的なコスト上昇の主な内訳

✓ 想定を大幅に上回る複合的なコスト上昇要因によって営業利益が減少した

コストアップ要因		2021.3月期	2022.3月期	影響額 (千円) (※△は減益影響)
鋼材 (パイプ)	仕入高 (トン)	4,824	9,968	△390
	平均仕入kg@(JPY)	102.8	142.0	
鋼材 (コイル)	仕入高 (トン)	4,037	5,800	△185
	平均仕入kg@(JPY)	99.4	131.4	
鋼材 (タイ)	仕入高 (トン)	2,337	3,441	△229
	平均仕入kg@(THB)	32.9	51.9	
アルミ (国内)	仕入高 (トン)	581	545	△41
	平均仕入kg@(JPY)	387.5	462.1	
アルミ (中国)	仕入高 (トン)	1,636	1,675	△139
	平均仕入kg@(RMB)	14,746	19,951	
原材料 計				△985
ドル建仕入	仕入高 (千US\$)	91,984	89,901	△591
	平均レート	106.0	111.9	
合計				△1,576

# 主要な原材料価格の実勢推移

- ✓ 使用量の多い鋼材はほぼ一本調子で上昇が継続。とりわけ2021年7月頃からの上昇が急激で販売価格への転嫁が追い付かず
- ✓ 販売価格転嫁は進めているものの、主要な原材料価格の上昇が継続しており、値上げ効果が実現するまでには相応の時間を要する



<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">建設機材関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新型足場「アルバトロス」は大手建設会社での採用が決まり出荷が始まるなど、新規顧客への販売や既存顧客の追加購入によって順調に販売が伸長し、着実に市場シェアを拡大</li> <li>✓ 「アルバトロス」の販売増に呼応するかたちで、他の関連製品の販売も増加</li> <li>✓ アルミ作業台の新製品も販売を伸ばし、アルミ製品の売上増を牽引</li> <li>✓ 値上げは実施したものの、鋼材やアルミなどの原材料価格の上昇が想定外に急ピッチで進み利益率が低下</li> </ul>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">住宅機器関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アルミの世界最大の生産国である中国でのアルミ価格高騰や物流コスト上昇に販売価格転嫁が追い付かず、円安傾向の定着もあり利益率低下</li> <li>✓ フィットネス機器への需要減少は想定を上回り、コロナ禍以前の水準も下回る状況</li> <li>✓ 海外のコロナ禍で委託先での新商品開発に遅れが生じ、モデルチェンジによる価格改定ができず、円安、鋼材価格上昇、運送コストなどの原価アップによって利益が減少</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">レンタル関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中高層向けレンタルの機材稼働率は期初から順調に上昇し、コロナ禍前の水準を回復</li> <li>✓ 「アルバトロス」の稼働は年間平均が前期ピーク時を上回る高稼働が継続</li> <li>✓ 低層向けレンタルは、施工人員増が想定通り進捗せず、建築着工増加の波に乗り切れず</li> <li>✓ 建築着工床面積は前年比増が概ね継続したが、案件小口化で価格競争厳しく利益率が戻らず</li> </ul>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">電子機器関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 特定小電力無線や業務用無線は、企業向け需要回復にしたがい、新製品が期待通りに販売を伸ばした</li> <li>✓ 子会社のアルインコ富山も電子基板の実装受注が増加</li> <li>✓ 株式取得により子会社化した東電子工業は、のれんの償却負担で利益面での寄与には時間を要す</li> <li>✓ 東電子工業では、DXやEVなど電子部品業界の急速な環境変化から、プリント配線板加工の需要が旺盛</li> </ul>

# 2022年3月期連結財政状態

(単位：百万円)

	2021.3月期		2022.3月期	
	実績 (構成比)		実績 (構成比)	前期末比 増減額 (増減率)
流動資産	33,185 (59.9%)		<b>36,435</b> <b>(62.6%)</b>	+3,250 (+9.8%)
固定資産	22,258 (40.1%)		<b>21,798</b> <b>(37.4%)</b>	△460 (△2.1%)
資産合計	55,443 (100.0%)		<b>58,234</b> <b>(100.0%)</b>	+2,790 (+5.0%)
流動負債	16,159 (29.1%)		<b>20,005</b> <b>(34.4%)</b>	+3,846 (+23.8%)
固定負債	11,605 (20.9%)		<b>10,710</b> <b>(18.4%)</b>	△895 (△7.7%)
負債合計	27,764 (50.1%)		<b>30,716</b> <b>(52.7%)</b>	+2,951 (+10.6%)
純資産	27,679 (49.9%)		<b>27,518</b> <b>(47.3%)</b>	△160 (△0.6%)
負債・純資産合計	55,443 (100.0%)		<b>58,234</b> <b>(100.0%)</b>	+2,790 (+5.0%)
自己資本比率	49.8%		<b>47.2%</b>	△2.6ポイント
D/Eレシオ	57.5%		<b>63.2%</b>	+5.7ポイント

## 主な増減要因 (百万円)

### 流動資産

将来の需要増に備えた計画生産によるたな卸資産増 +2,747

### 固定資産

福知山物流センター稼働開始などによる有形固定資産増 +508  
持分法による投資損失による長期貸付金の評価減 △860

### 負債

増産による仕入債務の増加 +2,429  
長・短借入金の増加 +1,510

### 純資産

親会社株主に帰属する当期純利益 +451  
配当金支払 △773

### (参考)

連結子会社の増加による総資産の増加 +1,407

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 2022年3月期連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2021.3月期
	実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,293
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,681
財務活動によるキャッシュ・フロー	△157
現金及び現金同等物の期末残高	5,414
フリー・キャッシュ・フロー	612

2022.3月期	
実績	前期比増減額
2,711	△2,582
△3,664	+1,016
583	+740
5,081	△332
△953	△1,565

## 主な増減要因 (百万円)

### 営業キャッシュ・フロー (収入の減少)

税金等調整前当期純利益の減少  
△1,559  
売上債権の増加  
△1,119

### 投資キャッシュ・フロー (支出の減少)

子会社株式の取得による支出の減少  
+903

### 財務キャッシュ・フロー (収入の増加)

借入金による収入  
+208  
自己株式の取得による支出の減少  
+472

- ✓ 営業キャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が減少したことや、コア事業の売上高増加によって売上債権が増加したことから減少
- ✓ 投資キャッシュ・フローにおいては、「新型足場」を中心にレンタル資産への投資を継続するとともに、前期に続けてM&Aによって2社を取得し子会社化
- ✓ フリー・キャッシュ・フローの減少に対しては、一部を借入金にて調達

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

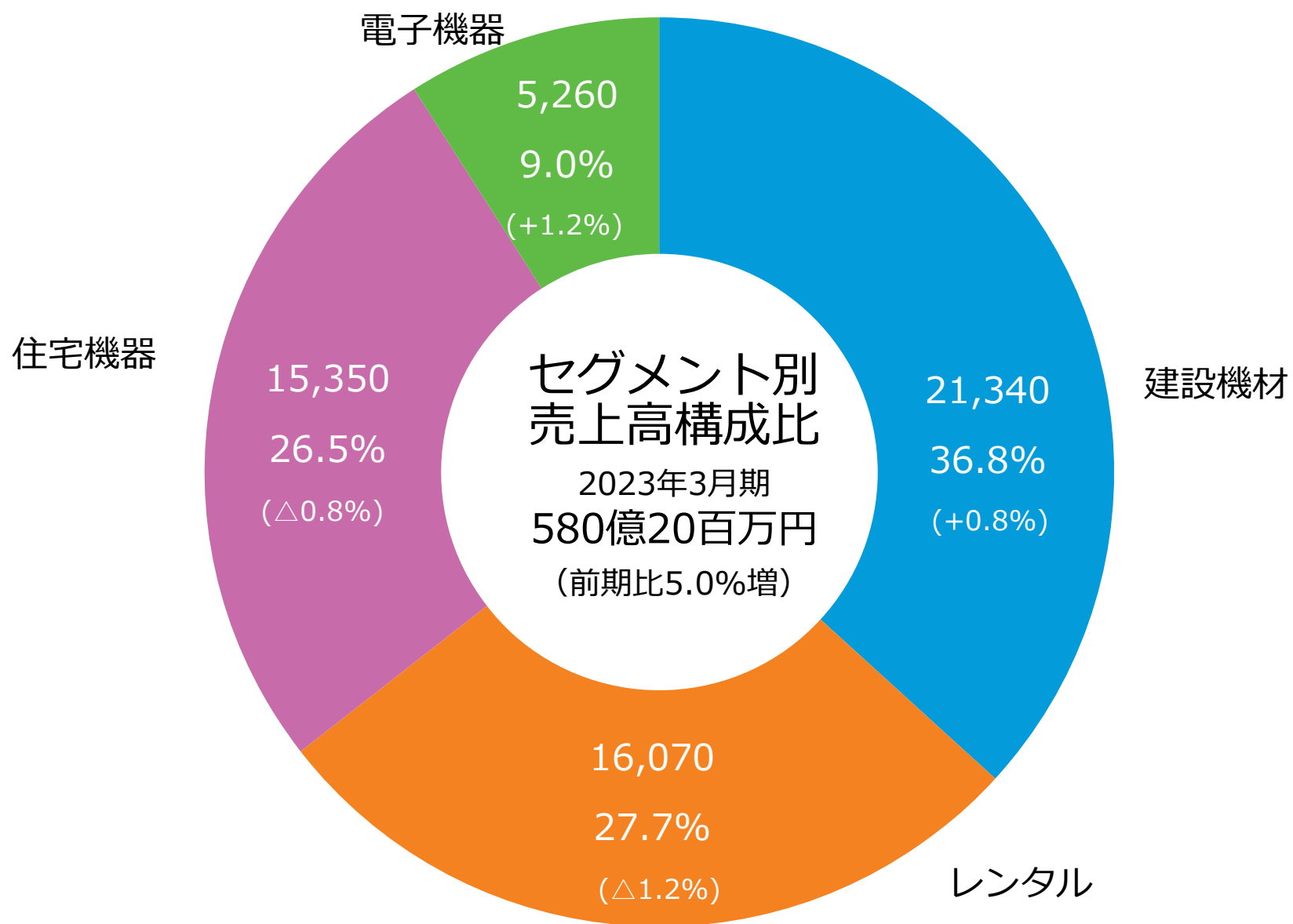
# 2023年3月期業績予想について

# 2023年3月期 連結損益計算書計画

- ✓ 2023年3月期は**前期比で増収、増益を計画**
  - ✓ 売上高は全てのセグメントにおいて前期比で増加する見込み
  - ✓ 原材料価格高騰や円安によるコスト上昇を**販売価格へ転嫁するためには一定程度の期間を要する想定で、利益面での改善は下期となる見通し**
- (単位：百万円)

	2021年 3月期 実績	2022年3月期 実績			2023年3月期 計画		
		上期 (前年同期比 増減率)	下期 (前年同期比 増減率)	通期 (前期比 増減率)	上期 (前年同期比 増減率)	下期 (前年同期比 増減率)	通期 (前期比 増減率)
売上高	53,341	26,714 (+6.0%)	28,541 (+1.4%)	55,255 (3.6%)	28,650 (+7.2%)	29,370 (+2.9%)	58,020 (+5.0%)
売上総利益	15,029	7,083 (△2.9%)	6,318 (△18.3%)	13,402 (△10.8%)	6,730 (△5.0%)	7,860 (+24.4%)	14,590 (+8.9%)
販管費	12,475	6,161 (△2.5%)	6,121 (△0.6%)	12,283 (△1.5%)	6,530 (+6.0%)	6,520 (+6.5%)	13,050 (+6.2%)
営業利益	2,554	922 (△5.5%)	196 (△87.5%)	1,119 (△56.2%)	200 (△78.3%)	1,340 (+583.7%)	1,540 (+37.6%)
経常利益	2,874	1,164 (+3.6%)	△38 (-)	1,126 (△60.8%)	280 (△75.9%)	1,380 (-)	1,660 (+47.4%)
親会社に帰属する 当期純利益	1,664	747 (+24.1%)	△296 (-)	451 (△72.9%)	160 (△78.6%)	850 (-)	1,010 (+123.9%)

レンタル資産投資額	1,785	---	---	2,048	---	---	1,915
一般設備投資額	1,514	---	---	1,246	---	---	2,876
レンタル資産償却額	2,036	---	---	2,006	---	---	1,904
その他減価償却額	979	---	---	1,000	---	---	1,154

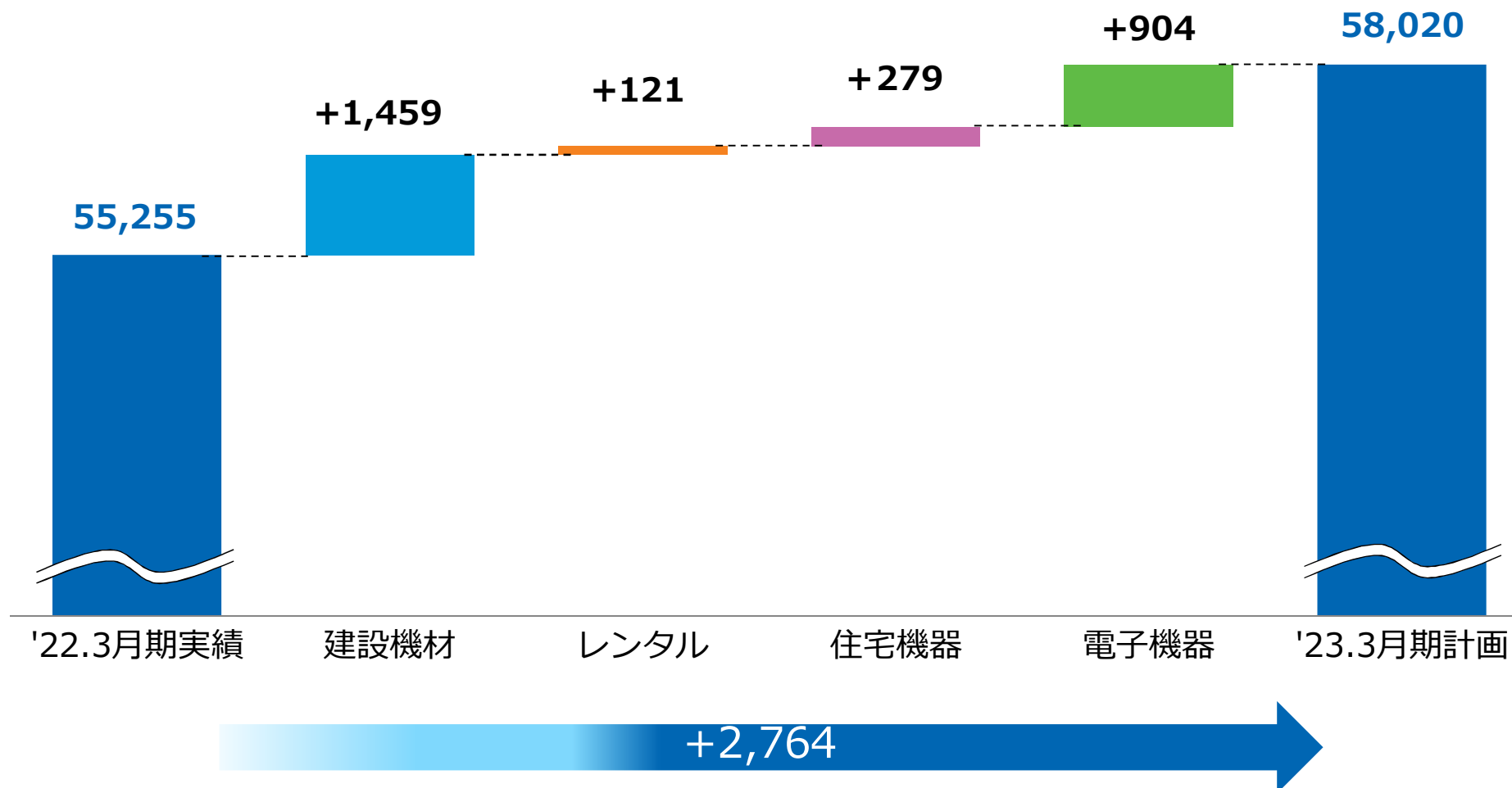




# 2023年3月期 売上高計画セグメント別増減

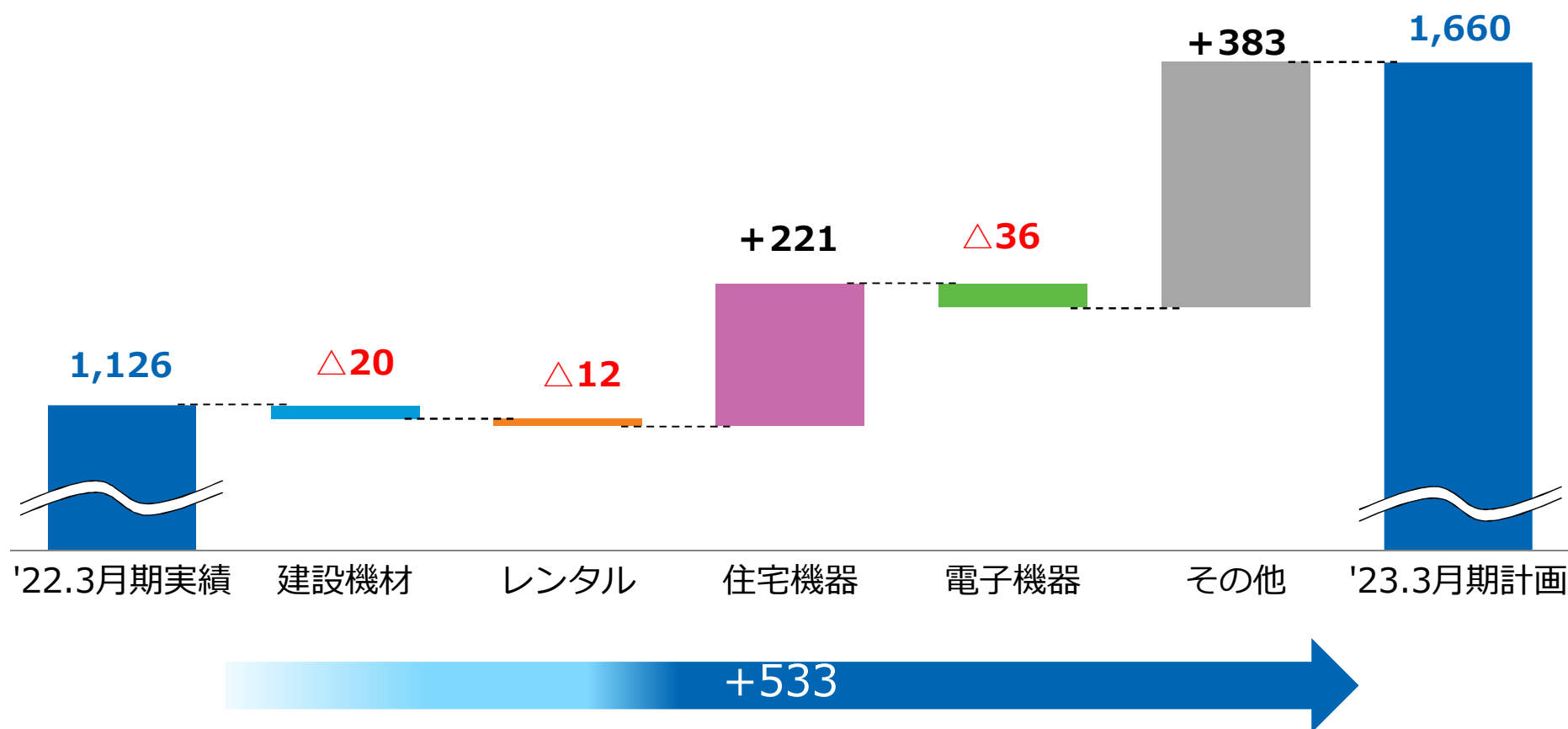
- ✓ 全てのセグメントにおいて売上高は前期比増となる見込み
- ✓ 前期に子会社化した2社の売上高も通年で寄与（前期比+839百万円）

(単位：百万円)



# 2023年3月期 経常利益計画セグメント別増減

- ✓ コア事業では値上げ効果の実現に時間を要することや、レンタル市場の価格競争が厳しくレンタル単価が上昇し辛いことから、利益面では概ね前期並みを見込む
  - ✓ 住宅機器セグメントでも値上げ効果の実現に時間を要するものの、フィットネス機器の新製品発売によって増益効果を見込む
  - ✓ 前期（2022年3月期）に「その他」に含まれていた持分法による投資損失は、当期（2023年3月期）はなくなるため「その他」の改善幅が大きくなる
- (単位：百万円)

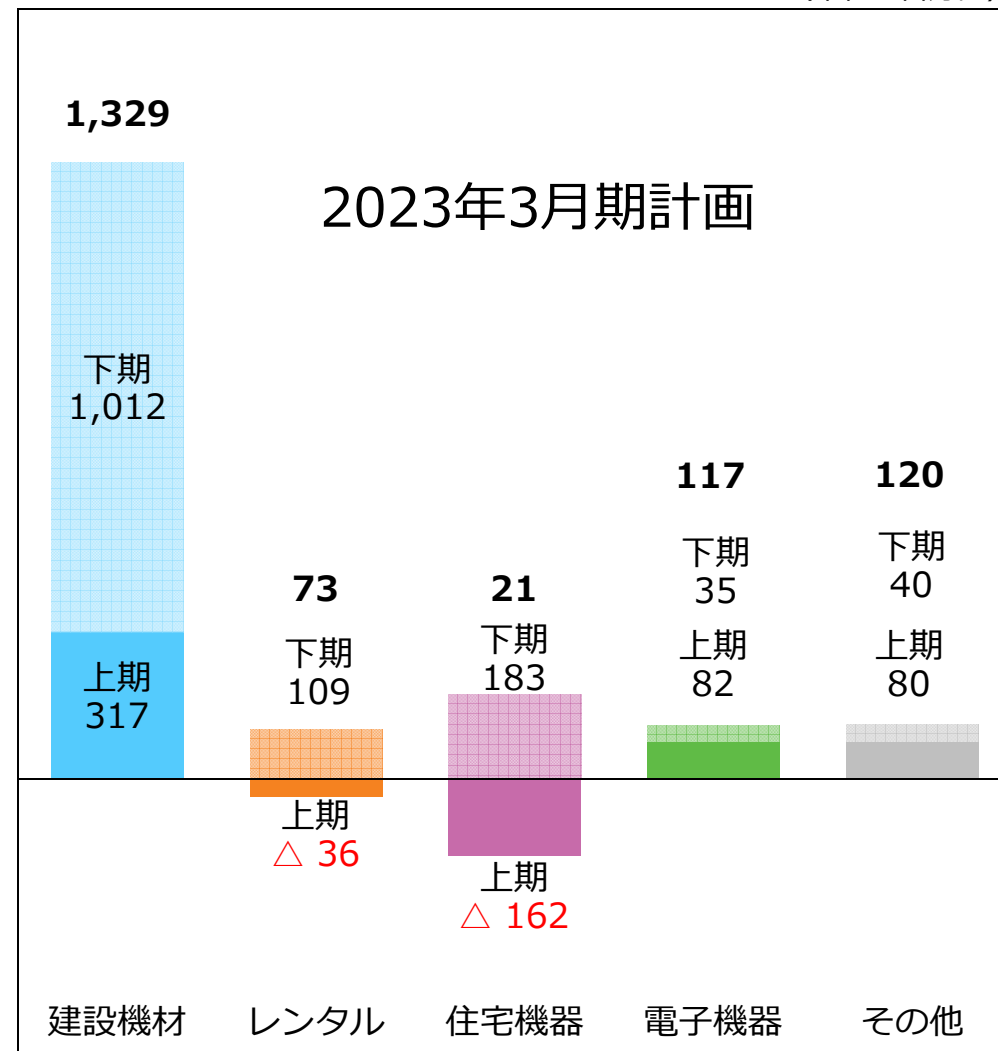
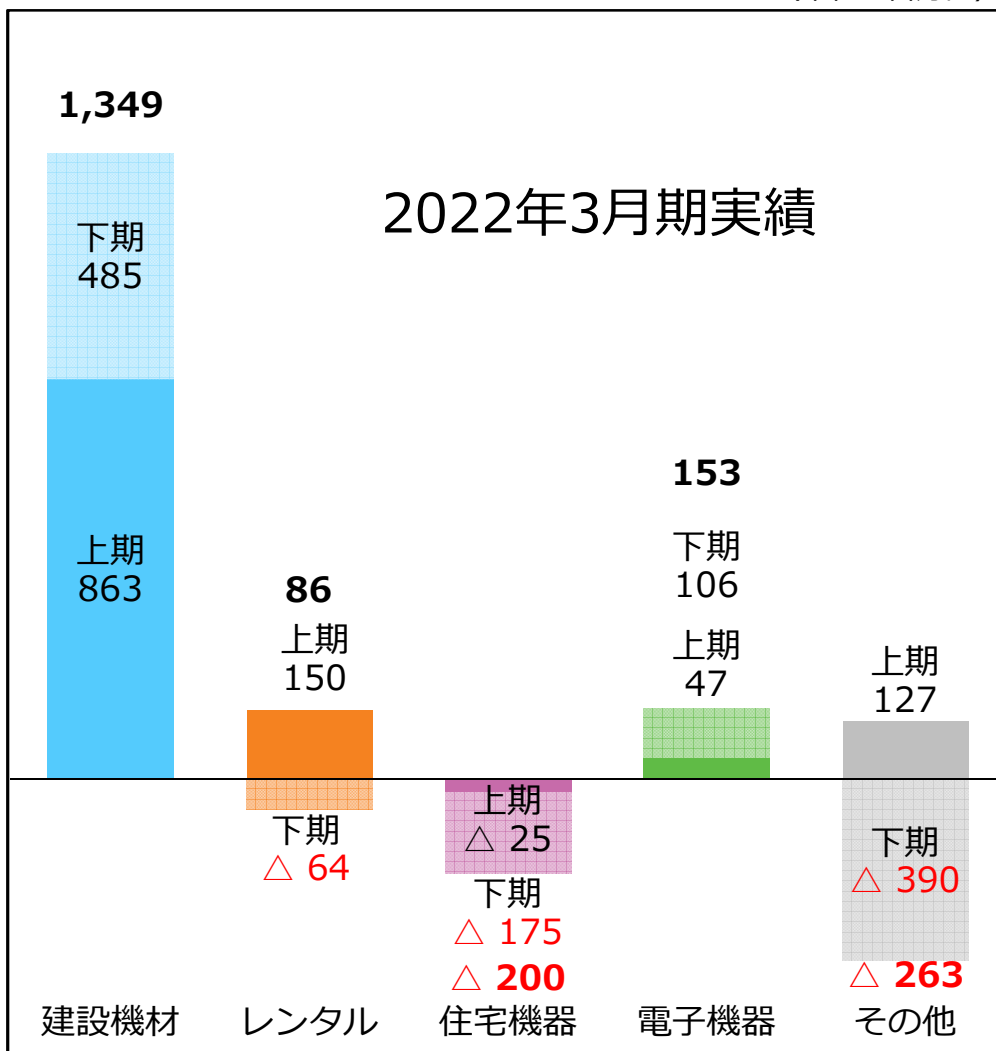


# 2022年3月期 セグメント別経常利益

原材料価格の急騰に対して販売価格への転嫁を急いでいるが、販売価格改定前の受注消化に一定の期間を要することや、顧客の購買意欲減退を招くことのないよう対応を進めていることから、利益面での改善は2023年3月期の下期に顕在化する見込み

(単位：百万円)

(単位：百万円)



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競業状況等、多くの不確実な要因による影響を受けます。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。

本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

【お問い合わせ先】

アルインコ株式会社・経理部

大阪府中央区高麗橋4-4-9淀屋橋ダイビル

Tel:06-7636-2220・Fax:06-6208-3701